

これまでの経過：

超党派政策会合からの提案・打合せ

2016年

- 4月21日 超党派政策会合（国家プロジェクトづくり 第11回）
テーマ：・経済底上げを何よりも優先させた事業の構造化。（大判・たたき台）
・東京都一組織委員会－政府・与野党－民間MP が協働して
2020東京五輪を成功させることのできるアクションとプログラムの内容づくり。

- 9月14日 東京都3局長へ提案・打合せ（小池知事へ報告）
多羅尾 総務局長／ 中嶋 生活・文化局長 / 塩見 オリパラ準備局長
テーマ：超党派政策会合によるたたき台提案（大判）からの具体化プロジェクトとして、
「東京プラザ（仮称）」、「オリンピック・プラザ（仮称）」を提案・打合せ。

- 11月9日 超党派政策会合（国家プロジェクトづくり 第12回）
テーマ：
 - ・“五輪成功への新しい都政姿勢として重要なプロジェクト。”
 - “「東京プラザ（仮称）」の成功に向け、東京都－五輪組織委員会
－国・与野党－民間MP が協働して進めたらよい。”（石原信雄顧問 談）
 - ・“2020新しいレガシーづくりに向け、1964年、1980-85年を超える
具体的な小時代づくりを。”——「東京プラザ（仮称）」を着地・集約場へ。
（レガシーづくりへの各議連）

[11月9日 討議の焦点となった内容]

- “新しいレガシーづくりへ、開発場・着地場が必要。”
“当政策会合が都に提案、検討を進める「東京プラザ（仮称）」を落とし所として
具体化したい。”

与野党幹部議員とレガシー化への関連議連の事務局長、
内閣五輪推進本部（多田統括官）、五輪組織委員会（井上運営局長）、
他参画者の討議より意見集約。

「1964 前回東京五輪後、1980-85 年（日本を牽引した小時代 別紙参照）を超える
新しいレガシーづくりを、2020 年に向け実行しよう。」
——として目標化されました。

「東京プラザ（仮称）」は、東京の顔出しに向け、都の3局長へ提案、具体化に向け
検討を進めております。
都が事業主体、財団化（トヨタ財団等からのサポート含）を検討するなどして、
会期前・中・会期後においても東京がポテンシャルを維持し続けることができるよう、
事業化を図っていくものです。

[11月9日 超党派政策会合（第12回） 討議の内容]

国交省 武藤浩 事務次官、（福岡陥没事故対応の為、のち退席）
内閣 五輪推進本部 多田健一郎 統括官、
東京都 都市整備局 五嶋智洋 都市づくりグランドデザイン担当部長、
山下貴司 衆議院議員、
松沢成文 参議院議員、
黄川田仁志 衆議院議員、
小泉 直 日本ゴルフツアー機構名誉会長／トヨタOB、
及び 民間オブザーバー各位 着席。
のちに、
逢沢一郎 衆議院議員、
五輪組織委員会 井上恵嗣 運営局長、帆足雅史 課長、着席。
牧山弘恵 参議院議員。（後半）
（幹事より、）
隈研吾氏より連絡、海外より帰国中。間に合えば出席。
笠議員、原口議員、長島議員、渡海議員、盛山議員、大串（正樹）議員 は、
TPP 決戦日のため出席できないかもしれない旨。野田前総理には直接説明済。
東京都幹部は、本日 小池知事の都政改革会議と重なり、後日報告予定。

会合幹事（鈴木浩二）より説明：

超党派政策会合として、「オリンピック・プラザ（仮称）」と「東京プラザ（仮称）」を計画。
「オリンピック・プラザ」は五輪MPを集積。
「東京プラザ（仮称）」は、東京の顔を前へ出す。
アニメ、ゲーム、古典、みな個人や中小零細（97%）。
アニメのキャラクターは知っているも、誰がつくったか知らない。
彼らは、トヨタやパナソニックのようにMPになり得ない。
唐津一 前顧問の言われていた“小さな大企業”を含め、それらを前へ出そうと。

それを、今年春頃に生活文化局へ提案した。当時は多羅尾局長、今は総務局長。
五輪MPロゴは使えないとしても、東京の顔出しとして、&TOKYO の次にくるような五輪ロゴ
をつくって、100箇所近くへ展開し、前へ出すことを都へ提案した。

新国立競技場は、隈研吾氏が設計、自分（鈴木）が事業戦略をつくって、新国立競技場の
中にもこれを導入するよう計画した。
選手村内へも、賑わいを出していくための場として検討している。

—資料説明 「東京プラザ（仮称）」における東京の顔づくりに向けて
1980-85年の小時代より、2020 東京五輪のレガシーづくりへ

（図の左側）

1964 東京オリンピック →1980-85 日本を牽引した小時代（ハイテク立国、日本オリジナル
のソフト・コンテンツ）があった。

YMO、ソニー・ウォークマン、新宿アルタ、六本木WAVE（→後のJ-WAVEへ）、
メカトロ店舗、有楽町マリオン……。

さらに、ペレストロイカで日ソ初の合弁事業として日本の文化や この小時代を輸出した。
皆、自分（鈴木）が計画し実施に関与したもの。

これらが、今に至る日本を牽引した、東京の顔になっている。
この時は、技術とソフト・コンテンツが融合していた。

(図の右側)

その次のものを、2020 東京五輪に向けてつくる必要があるか。
東京の新しい顔として、AI、VR、IOT、ICT、FCV、スマートシティ等、これにどうソフト・コンテンツが関わるか。何がレガシーとして興せるか。その提起のために、つくってみた。

東京の顔でもあるアニメ・ゲーム(公式ゲームMP/セガG)を組織委員会に継いで、
リオ五輪の開会式でマリオが使われた。
今度はどうするかを考えるのに、このようなベクトルなのではないかと思っている。
分かり易い資料なのではないかと。
具体的につくらなければ意味がない。

山下貴司 衆議院議員： ライブ・エンターテインメント議連 事務局長
クール・ジャパン特命委員会 事務局長代理
マンガ・アニメ・ゲーム議連 //

- ① 鈴木先生と一緒に、クール・ジャパンやライブ・エンターテインメントの落とし所として具体化させたい。事業者(スクエア・エニックス等)を呼んで、今聞いてきたばかり。
ソフト戦略は大切。著作権整理も必要。またお知恵をお願いします。
- ② 大会の成功と併せて、レガシーをどうつくるか。あと政策・あと利用について、我々の議連でも検討しているが、皆さん(政府、組織委員会、東京都)は、どう考えているのか。

多田健一郎 統括官 (内閣官房 五輪推進本部)：

(鈴木との会合前の打合せ 10/31 を含め、)

鈴木さんの言うように、1980-85 の小時代を超えるものを、2020 のレガシーとしてつくるべきという考えは、私もその通りだと思う。
私も(政府・内閣府)は、開催都市である東京都がJOCから権利を受け取り、大会が円滑に進むよう、政府としてサポートする立場。

セキュリティ(サイバー含)、CIQを含めた輸送、夏の暑さ対策等、連絡会議により関係省庁を横断する連絡会議を設けている。

基本的には、大会運営や仮設の問題は組織委員会マター、後利用については東京都マター。
新しい創造・活性化のテーマにも逐次対応している。基本方針は昨年 11 月に出された。
復興五輪として、福島で野球・ソフトボール予選開催は、東京都と連携。
また、組織委員会と連携し、被災地を含めた聖火リレーのルート決め等。

鈴木： 経済底上げにつながるものは検討されているのか。

多田：

技術力の見直しや、五輪の全国的な展開、機運の醸成に向けた文化・情報発信など。
外国人観光客が 2020 年には 4 千万人、来て観て楽しいプログラムになっているか、といった観点での試みをしている。

例として、相撲協会で、外国人対応に向け、英語でプレゼンテーションする大会に2千人が参加。障害者の方々も招いて、共生社会に向けた手話画面出し等のトライアルも行い、政府としてサポートしている。

鈴木：

今回、東京の生活・文化面に詳しい博報堂にも参加して頂いた。「&TOKYO」の次に来るものとして、東京の顔を前へ出すための「東京プラザ(仮称)」を考えたい。

9月に、「東京プラザ(仮称)」について、東京都3局長(多羅尾総務局長、中島生活文化局長、塩見オリパラ局長)へ提案・打合せをした。

多羅尾総務局長との間で、東京都による財団化のアイデアがあり、私の方からトヨタ財団にサポートをお願いしてはどうか。これが、事実上の“レガシー財団”になっていくのではないかと。

※ 因みに、(超党派政策会合の)かつての顧問 内田健三先生が、日本新党の立上げの頃より、何度か、小池百合子議員を連れて来られた経緯もある。

「東京プラザ(仮称)」は、山下議員が事務局長を務める「クール・ジャパン」や「ライブ・エンターテインメント」、笠浩史議員が事務局長を務める「マンガ・アニメ・ゲーム議連」の落とし所にもなるだろう。

松沢成文 参議院議員：

(会場問題について)

Q 伊豆のサイクルセンターは分村? A 多田：基本は修善寺あたりに分村と聞いている。

一番問題なのは、ゴルフ会場(霞ヶ関カントリー倶楽部)。

① 輸送コストの問題

近くに宿泊施設がない。選手村から通うとなると、首都高→外郭環状→関越道、となる。観客2万人を集めたいと。首都圏からだると2車線しかなく、大渋滞になる。分村しないと、首都高やNEXCOから五輪専用レーンを借り上げるだけでも、相当の金がかかる。組織委員会は、経費計画がまだ出来てないと。専用道路の借上げ費を補償しなければならない。

私の見立てでは、選手村のとなりの若洲パブリックコースなら、輸送費もかからない。

仮設スタンドつくる程度で済むので、会場費は10億円程度で済む。

霞ヶ関だと輸送費で100億円はかかるだろう。小池知事も知らないのでは?

② 暑さ対策の問題

7~8月、半分は真夏日。ゴルフは気温40度の中でのスポーツ、熱中症への警告もある。

ゴルフ選手は6時間も屋外にいることになる。

熱中症対策としてアスファルトのこぼり触れるが、今年8月霞ヶ関のゴルフコンペでは5人が熱中症で倒れた。同様に5%とすると、(五輪では)2万人のギャラリーと5千人の大会関係者のうち、1250人倒れるだろうと。埼玉県中の救急車が対応しても間に合わない。

森さんも、このままではまずいのではと言いつつ始めている。

霞ヶ関はゴルフ協会の一部の人が決めた。大失敗するのではないかと懸念している。

この点は、これからもバンバン質問しますので。

小泉OB：確かに、(霞ヶ関ゴルフ場は)平時でも車で1時間、渋滞すると2~3時間かかる。

夏期はどこよりも暑く、8月は休みになる程。

鈴木：後ほど組織委員会も来られます。4者会議もある。

ここは風通し良い場所なので、あとで議論しましょう。

多田統括官：

IOCもあまりコストが重いと次に手が挙がらなくなることを心配。ある程度コストカットすべきと。

黄川田仁志 衆議院議員：

丸川大臣の答弁は、セキュリティ対策・輸送のことに終始している。
大会運営(ゲーム)のことだけでなく、
「オリンピックを契機にして意識を変えていくこと」を言って欲しい。
末節のことでなく、未来に向けて、国はこういう役割なんだと。
あれでは、国は何もやってないんじゃないかと、後で突っ込まれる。よく考えてもらいたい。
東京都はあくまで大会の主催者。では、国は何なんだと。お手伝い・小間使いのようなことでは駄目。見せ方もあるから、工夫して、国の役割を示すべき。
サポートサポートばかり言われると、応援しにくくなる。

多田統括官：

すみません。内閣官房としても、プログラムつくって進めている。
現実問題としては、国を挙げての五輪だから金が足りなければ国、というのではなく、まず東京都が考えるべき、というのが我々の認識。
しかし、これを契機にいろいろ考えたらよいのではないか。

鈴木：

誰が司令塔なのかがあいまい。長島昭久議員も国会質問していた。重要なテーマだ。
情報収集は多田さんのところが中心だろう。そちらへ集まって皆知らないと困るが。
このように風通しのいいところで議論しないで、国会質問でいきなりやるからこじれるのでは？
(みな笑)

鈴木：(イオンモール 木村高郎 首都圏開発部長に向けて)
五嶋さん、以前、日野自動車本社工場跡地の開発検討に小野さん(東京都都市整備局の前任部長)が参加されていたが、五嶋さんがその御後任です。
今回も商業と開発視点から、イオンモールに声を掛けた。開発トップの岩本専務も居られ、まっすぐで、やる気のある方々。

木村：イオンモールの木村です。お役に立てればと思います。

(五輪組織委員会 井上局長・帆足課長 が遅れて加わる。)

鈴木より、松沢議員(先に退席)よりの会場問題への指摘(ゴルフ他)の概略を説明。

多田統括官：

確かに、答弁は我々ですね。
タバコも政府としての検討事項。関係事業者と意見交換しているところ。
幅広にいろいろなことを扱っている。
食べ物の持続可能性を考えた調達基準、農薬や児童労働がないか等々、国際基準に沿って。

今はリオ五輪が終わって、「いよいよ東京」という局面。
都知事もかわって動いている中、どこが頭をとっているのかと。開催都市の東京都がJOCから引き取って、組織委員会をつくって森さん井上さんがこなしていくと。

黄川田議員：

安倍総理の鶴の一声で新国立競技場も白紙。国が権限持っていることは明白。
同じレベル・土俵でギスギスやっているから、ちまちまして逃げている印象になる。
国はもっと大きなところで、土俵が違うんだという論法の方が良いのでは。

(鈴木さんの試案ペーパーにもあるような、)

五輪を契機に、ITやAI 等の革新的技術、ソフト・コンテンツを生かして、社会をどう構成していこうとか。五輪大会運営(ゲーム)にきゅうきゅうするのではなく、新しいものをつくっていこうという提案ですね、その通りだと思う。

発言者 未確認：

多田さんに集中砲火、オリンピック特別委員会のような。
もしかして多田さんが司令塔？ 皆、問題意識を持って、こうして集まっている。

加藤俊也氏(スマートシティ企画 事業推進部長)：

私はかつて、GE(TOPパートナー)の日本責任者として、東京都や組織委員会へ 2 年ほど提案して回った。

まさに今の議論にあるような、新しい技術で新しいものを見せたいと。ソフトレガシー、文化、スポーツ、福島・宮城での開催を技術でリアルにつなぐ等。

しかし結局、あたま(司令塔)が見えない。誰が何をやっているのか分からない。

東京都は、企画財務局、オリパラ局、都市整備局、各局長クラスを回ったが、予算は決まっています、そこそこいいと。

組織委員会は企画財務やレガシー担当、国は平田さんにも当たってみた。

しかし、リアルにどうなっていくのか見えなかったというのが正直な印象。

GEはインフラや水が本業。

新技術があっても、御披露目できる環境がない。

キャッチアップしてもらえるところがなかったというのが正直な印象。

日本が世界に対して何を示したいのかが根本的に無いような気がする。

それは、どこがリードするのか。

鈴木：

経済の底上げや、新しいものを興そうということに、今の時代は社会全体が前向きになりにくい。

「東京プラザ(仮称)」は東京都の 3 局長に提案した。

東京の顔であるのに、前へ出て来られない中小企業に気付いたことがきっかけ。

加藤さんの話は大事。新国立競技場はパートナーの隈研吾氏が設計。

今は、かつてのようなマスタービルダー、(丹下さんや唐津先生のような)引っ張っていく人、旗になる人がいない。

組織委員会だったらどうなのか。

新しいことを持っていく窓口は？ アイディア・セクションがある？

文化オリンピックとは違う？ だから博報堂に入ってもらおうと。

組織がなければどこをどうやるのか。

井上 運営局長（組織委員会）：

項目・分野により、役割分担している。

参画プログラムは、企画財務局の中村CFOの下にレガシー担当があり、認定制度の公募が10月から始まった。MPスポンサー用とは別の、一部をアレンジした独自の五輪エンブレムが使える、文化プログラム用のもの。提案ベースで五輪を盛り上げ。

レガシーも考えて、文化教育だけでなく、持続可能性等も考えて、エンゲージメントとして参画してもらおう。リオや、それぞれの大会でも行われている。

多田統括官：

オリンピック別枠予算ではない。行政的には予算の問題や説明責任、コンプライアンスが発生するので、簡単に対応できない事情もあるだろう。民間の全額持出しでオープンにやるなら別だが。

しかし、やらないままでいいのかという議論は確かにある。

五輪をきっかけに、いろいろやる時の動かし方について、日本での経験がない。

自主的に上手く継がり、情報集約する社会的仕組みを、やったことがない。

文化 協会 うまく横につながる仕組み 考えるべきだろう。

60年前の東京五輪の時、代々木体育館 もドタバタ・徹夜で、余裕などどこにもなかった。

今の行政は透明性・コンプライアンス求められる。お金の問題をはじめ、柔軟さを失っている。

マスタープランどおりにやらなければ、と縛られる。

民間が入るならもっと自由でないといけないのに。

良く分かっている どうやってショウアップしてつなぐか 従来のやり方では難しい

鈴木：

多田さんの話からエネルギーを感じる。そこがキーになってセクション・組織をつくることが出来たら、情報を拾い上げることができるだろう。

代々木体育館は丹下さんだが、自分は教えを得た者として丹下さんからこの机をもらった。

丹下さんは建築家だが、分野にとらわれず、いろんなことをやった。

レガシー新しいものを創る時には引っ張る人が必要だが、今はそうしたマスタービルダーがいないので、“なんちゃって”から動くしかない状況。

黄川田議員：

もやもや感、私も持っている。共有している。

知恵を出すようにやってみますので、皆でやりましょう。

福井毅局長（博報堂）：

東京大会の世界に向けたアイデアがない。周辺でみているだけだが、より高い所でのレガシー目標が必要なのでは？

加藤：

ロンドン五輪では、全体をまとめる一つの組織体(ODA)があり、レガシーとして5つの柱を立てていた。

日本の場合、柱と司令塔が見えないところが問題。誰がボール持っているか見えない。

ぼやっとしている。

組織委員会は暫定組織なのでレガシーの面倒は見れないと。

東京都は恒久施設だけ。新しいチャレンジは難しいと。

多田：

ロンドンの場合、東地区の再開発。自治体の財布も仕事も小さい。
だから国が金を入れて、国策として関与も大きいし、ODAの仕組みも成立する。
日本の場合、東京都は予算も国家レベル、身体が痛んでいない。
何を柱にして動いているかメッセージが見えないと言われればそうかもしれないが、
しかし、役人として言えばぶれてないつもり。

鈴木：

今の日本では、啓蒙・スローガンを持ちにくい、かつては異業種や建築家は横断しやすかった。
20年以上前だが、博報堂が「本流の時代」というムーブメントを仕掛けた。
デフレに突っ込んでいくときに、室町やバサラをテーマにし、資生堂やオートメーカー等もこれに
加わった商品をつくった。今、それが無い。

「東京プラザ(仮称)」、「オリンピック・プラザ(仮称)」は、組織として皆でやれるように計画した。
石原信雄顧問(元官房副長官)も、新しい都政姿勢として、皆で是非やるべきと。
加藤さんのような(実体験としての)話もあるので、“目に見える事業現場”となるよう、
組織や施設の計画もつくった。

多田：

今は価値観が多様化し、社会が流動化していて、新しい何かをつくりたいという気持ちは皆心の中
にあっても、これだろうと言うのは気恥ずかしい、難しい、という感じ。
多様化しすぎて一つに絞り切れないという社会背景がある。ベクトルが重なって消されて現状にな
ってしまうような。2020にどういうイメージを持つのか、みな多様。
前々年くらいになると、いろいろな動きが出て来るだろう

鈴木：

多田さんと井上さんはすごく良いツーショットだ。
武藤総長が、いの一に井上局長を代理として立てて下さった。
チームをつくって、横に継がれば良いのでは？ それが早い。とにかく、そうやって進めます。
東京都だけ、組織委員会だけ、バラバラな中で横断できない。

経済底上げが大きな狙い。そこに、「東京プラザ(仮称)」の件がある。
昔あった1980-85年の小時代の経験が大事だろうと。

牧山さんは御存知ですね、その後にプロデューサーを目指して当社に来られたこともあった。
女性の視点も要る。牧山さん、どうですか。

牧山弘恵 参議院議員：

多様化について。誰かが何か言うと同じ考えを持ち始めたり反発したり、というのを政治の世界で
みてきた。政治の世界に入る前は、米国で弁護士、その前はTBSでディレクターをしていた。
離れてみてから、マスメディアの大きさ、影響力が分かってきた。
与えられた10分の枠で、どう料理するかを決められる世界だ。
五輪後の経済効果について、与野党からの評価は出ているのか。

多田：

ロンドンも開催前は前向きでなかった時期がある。
東地区の開発として、地下鉄も引かれた。
文化プログラムに熱心だったことが、ロンドン五輪の良かった面として評価を受けている。
経済効果としてもペイできるとか 初歩レベルだが良くなったとか

加藤：

過去の五輪はみな再開発。かつ、最近の五輪はほぼ赤字。IOCでアジェンダ 2020 がつくられ、招致赤字を問題視。あるものを活用したマネジメントを推奨している。

多田：

皆さんより御指摘のポイントは頭に入れます。
今日は資料をお持ちできず、すみません。
新しい日本の創造に向けた基本方針として、文化や新技術、必要なあらゆるアイデアを入れたものだが、もしかしたらメッセージ性・・・ とんがっていくと言うのはなかなか・・・。
それぞれの自由さを持ちながら、どうやって上手く皆が動けるかたちをとるか。そこは行政主導では変だろうと個人的には思うが、そういう動きが一個一個 起こってくるのは大事なことだろう。

鈴木：

今日来られなかった議員の皆さん(先に退席の逢沢議員他、野田議員、笠議員、長島議員・・・)にも、先に話は出しておいた。TPPの件もあり、明日決戦なので。
「東京プラザ(仮称)」は、都が事業主体で財団をつかって、そういう動きをつくる場を提供しようという計画。4者協議にも施設予算を削る話ばかりでなく、話を出していこうと。
ぜひ協力して下さい。

小泉 直 日本ゴルフツアー機構名誉会長/トヨタOB :

日本社会の多様化、急激な変化がある。
1964 年当時、余裕などなかった。あらゆるものの成長期→バブル→今に至る。かつては皆 企業戦士だったが、今は成功報酬でなく、「感情報酬」の時代への急激に変わってきている。

英国のEU離脱しかり、米国大統領選挙しかり。(この会合中にトランプ氏の当確速報。)
過去の成功体験上でなく、がらっと変えるべき。国会議員にもそういう方が多い。

自動車で言えば、今朝の新聞の通り、トヨタ、ホンダ、日産ともに減益。しかし、氷山の一角で、流通も悪くなる。流通機構の問題による。
トヨタには、全国に5千か所のランチ(販売店舗)がある。
流通業界の再編は、トヨタと流通が一体となつての再編になるだろう。
日本人はお祭り事が好き。人の心をつかむことが大事。
ホワイトでもなくブルーでもなく“ホットカラー” と私は呼んでいる。

時間がないというのは言い訳。出来ないはずがない。
世界で優秀なのはベトナム人と日本人だと。

自動車ひとつとっても、アップル、グーグル、テスラ等、業界の壁を越えて参入してきている。
センサー、カメラ等で車を動かしている。2~3年でそれに代わる。
今までの車づくりの考えと全く違う。

しかし、自動車メーカーは2万3万の下請けを抱えている。それではやっていけない。日本の国が成り立って行かない。全てを考えないと。
いずれにしても、化石燃料、OPECの時代 は終わった。頭の中を変えないと。

マーケティングの基本は、「今日の成果と明日への投資」。日本人はその分析が下手。
ゴルフ機構の会長を経て、名誉会長を既に4年やっているが、今のゴルフ界はやや情けない業界になっている。
(鈴木さんのような) トータル・プロモーターが居ない。ぐいぐい引っ張ってほしい。
五輪に向け心配することは無い。
日本人は切り口を見つけるのが下手。A案で突き進むのではなく、代替案を持ちながら考えるべき。

鈴木： (組織委員会・井上局長に向けて)
大事な話ですよね。組織委員会として、小泉さんに役割をお願いしたら?
武藤総長にぜひ話を上げて下さい。

井上局長：
トヨタや日産は、目に当てるカメラ、センサー、ビックデータ等、車自体のノウハウを外から買おうとしている? 車体の試験や、蓄積されたもの、ぽっと出の他の分野から入ってきたところと違うのかと思っていたが、そうではない?
発言者未確認：
グーグル、アップル等も台頭し、大きなアセットを持たないでも、調達すれば何でも組み上げられる時代になった。

小泉OB：
3万の下請けが食い上がってしまう。自動車関連の従事者が日本の人口のどのくらいを占めるか、行政の方々に考えて欲しい。逢沢議員にもずっとそのことを伝えている。
生き方が変わり、みな共働きになって、流通も車のディーラーも大変なことになる。
世の中がどう変わるか、よく考えないといけない。

鈴木：
今日はどうもありがとうございました。追って議事録をお送りします。

以上 End.